

建築から見た近代史 — 横浜と西洋館 —

横須賀工業高校 木村芳幸

私は、平成一三年七月末に神奈川でおこなわれた全国歴史研究協議会（通称全歴研）で、標記のような題名で、発表をする機会を得ました。また、同春秋の歴史分科会研究発表大会でも同じ内容で発表をさせていただきました。この『研究報告』では全歴研での、「多文化共生」や「西洋文明との出会い」という大会や分科会のテーマを生かす目的から、全歴研大会での事前レジュメや資料を中心として構成してゆきたいと思います。

一、はじめに

① モノには心があらわれる

工業高校に勤務するようになって気づいたことがあります。それは、モノにはそれをつくった人の気持ちやつくられた時代の雰囲気や表れるということです。たとえば、関東大震災直後の横浜の建物は、みな不必要なほど柱が太く、稠密ですが、地震から時代が下るにしたがって柱は細く、疎になってゆきます。

これは関東大震災の被害の大きかった横浜に限らず関東一円の建物で見られる現象です。その様子から、文献資料と同等に、また、それ以上に地震にあった人たちの恐怖心や復興にかける思い、そして地震の記憶の風化を感じ取ることができます。

② モノを見る目を養う。

モノからいろいろな情報を得たり、思いを感じ取ったりするには、

モノそのものに対する知識が必要です。以前行われた全歴研沖繩大会では、大会に参加した神奈川県の方で、沖繩戦に関係する史料や資料館を巡りました。私が一番衝撃をうけた事柄は、資料館で日本軍の銃を前にして、銃器に詳しい先生が「この銃は訓練用だ。まともに弾は出ない。」と言われた時でした。そのとき、銃というモノを通して絶望的な戦闘に望んだ人々の気持ちの一端に触れたような気がしました。しかし、このような思いは一見、必要とも思えるほどのモノに関する知識がなくては得られないものです。

③ 「ベイブリッジの海側」に注目

羽田空港からバスを利用して横浜に來られた先生方は横浜ベイブリッジを通られたことと思います。ベイブリッジからは、日本一高いビルであるランドマークタワーを始めとした「みなとみらい21」の街並みに目を奪われたことでしょう。しかし、過去一〇〇年間にわたる横浜経済の発展をになったのは、ベイブリッジの足元やオフィス街とは反対側（海側）にある港のふ頭を中心とした地域です。今後、導入される総合的な学習を中心にした歴史教育に注目する必要があると思います。そのような歴史教育によって、時代の様相や本質を垣間見ることができるようになります。

二、建築史と関係する授業実践

現在の日本人の生活は椅子の利用を始めとして、西洋文化や技術に由来するものが大変に多くあります。日本史・世界史にかかわらず西洋文化・技術に関係する学習は大切です。

西洋建築を西洋史の文化史学習の一項目として扱うのではなく、いろいろな場面で扱うことが可能です。

① 世界史授業での実践

西洋建築は、ローマ時代のアーチ技術の確立によってあらゆる可能性が生まれたといっても過言ではありません。アーチ構造を持つ建物や橋などを写真で確認しながら、キーストーンを頂点とした石組みを確認したりしながら授業を進めています。また、定期試験では左の図形をキーストーンとしてアーチを書いてみるという出題などをしています。



② 日本史授業での実践

毎年五月に行われる横浜や鎌倉のハイキングでの事前学習では、「西洋館を探せ」と題して明治期から戦前期までに建てられた近代建築を街並みから探し出すポイントをレクチャーしています。

- ・ 煙突を探せ↑暖房は暖炉やスチームによったので煙突が必要
- ・ 縦長窓を探せ↑レンガ建築では大きな窓は技術的に難しい
- ・ 小さいガラス窓を探せ↑大きなガラスは技術的に困難で価格も高い。

・ スクラッチタイルを探せ↑帝国ホテルで使用されたひっかき傷をつけたようなタイルスクラッチタイルは昭和初期に好んで使われた。(例：首相官邸)などがポイントです。これらの見分け方を理解していれば、日本全国の街並みから近代西洋建築を見出すことが可能ですし、それはその街の近現代史を知る手がかりとしても有効です。

三、建築から見た近代史

学問上の議論はさておき、日本の近代建築史を授業で扱う場合は大きく三つの時期に分類することが可能です。明治初期は、コンドールの教えをうけた辰野金吾ら工部大学校造家学科(後の東京帝大建築学科)の卒業生が主導した西洋建築の学習・模倣期です。明治期建築界の三大巨頭の一人であり、米国やドイツで学び官庁建築に強い影響力をもった妻木頼黄が設計した横浜正金銀行本店(現・県立歴史博物館)の建物も西洋の様式に厳密にのっとり設計されており、そのような学習期の建築の集大成とも言えるものです。次の明治後期から大正期は、横浜に現存する日本最古の鉄筋コンクリートビルである横浜三井ビルを設計した遠藤於菟(えんどうおと)の既存の古典様式から離れた自由な創造の時期です。そして、昭和初期から戦前期は、ホテルニューグランドを建築した渡辺仁設計の東京国立博物館本館や「わが国」風を設計条件としたコンペの入選作を基にして設計された神奈川県庁本庁舎に代表される帝冠様式の建築があらわれる時期です。

武道や稽古事では「守破離」という言葉があります。最初は先生の教えを「守」り、習得する時期です。次は、先生の教えを「破」り、自分で工夫をしてみる時期です。そして、最後に今までの慣例などの囚われから「離」れて、自分のオリジナリティを確立してゆく時期がやってきます。

帝冠様式をオリジナリティの発露と評価するか、欧米列国の文化に対する強烈な対抗心のあらわれと捉えるかという問題があります。近代建築史を学ぶことで日本人と西洋文明とのかかわり方、さらに言えば日本近代史の一つの側面を浮き彫りにできるのかもしれない

ません。

四、横浜に現存する特色ある近代西洋建築

横浜では、以上のような時代の様相を表す建築物の他に横浜ならではの建築物も多数存在しています。山手の洋館群は、関東大震災によって壊滅的な打撃を受けて再建されたものであり、地震に弱いレンガ造は敬遠されるとともに、貿易の主導権を日本人に奪われつつあった外国人達の経済力という面からもほとんどすべてが木造住宅となっています。また、震災復興期にまとまって建築されたためどの建築もデザインにモダンさを持つとともに、窓に網戸が取り付けられるなど日本の気候風土に配慮した造りになっています。また、港に残る埠頭の遺構や倉庫建築群もその構造から、貿易の規模や扱われた品物を反映したものであり、さしずめ「目で見る日本近代史」ともいうことができると思います。

五、他の地域での可能性

他県の先生方と会話をすると、「神奈川は鎌倉・横浜があり、郷土史と教科書学習が結び付けやすい」というお言葉をいただきます。確かに神奈川県はめぐまれた環境にあるのかもしれませんが、モノを通しての歴史学習、特に今回のテーマである「二一世紀を切り拓く歴史教育、多文化共生の時代を生きる」はどの地域でも展開が可能です。

建築に限定しても、戦前に建てられた小学校の校舎、和式の住宅に併設された西洋館、戦後の日本で生み出されたダイニングキッチン、畳の生活と椅子の生活などいろいろな手があります。例

えば東京国立博物館ですが、正面の本館の建物は昭和初期に建築された帝冠様式の建物です。また、正面向かって左側にあり、大正天皇の結婚に際して市民たちから皇室に献上された表慶館は西洋古典様式の傑作ともいえます。ここからも大正という時代の雰囲気昭和戦前期という時代の様相を対比することができます。さらに付け加えれば、正面向って右側の東洋館、近年、新築された法隆寺宝物館などは、四角い箱に四角い窓を原型としたモダン様式の建物であり戦後という時代を感じ取ることができる建築です。これらの身近な生活文化に関する調査や発表を中心とした学習などを通じて「歴史的な思考」を育む教育の実践も可能だと思えます。

〈主な参考文献〉

『建築散歩24コース・東京横浜編』 志村直愛他著 山川出版社刊

以下、全歴研当日に配布したプリント類を掲載いたします。掲載したプリントの作成上の留意点は、

- ・モノを見つめることを通して歴史を読み取る努力をする。
 - ・郷土史が教科書の歴史と関係深いものであることが分かる。
 - ・知識のみでなく歴史的な事柄の考察をする過程を大切にす。
- などですが、日々が試行錯誤の状態です。また、新課程での教科書がオールカラー化されることが予測されていますし、マルチメディアの発達は目を見張るものがあります。そのような意味からもモノを出発点とした教材作りをこれからも大切にしていきたいと思えます。

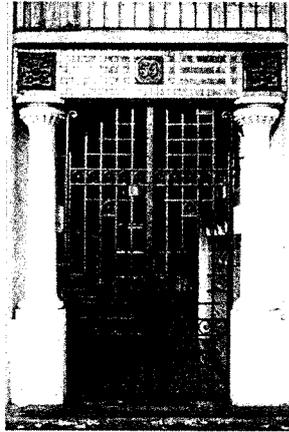
あなたの家をオーダーメイド

科 年 組 番
氏名 _____

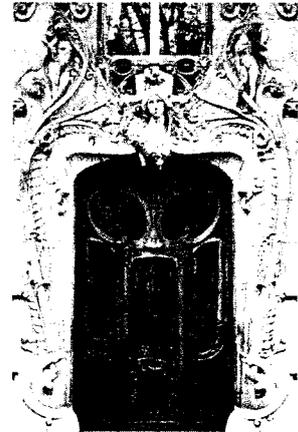
1. 下のそれぞれのドアは、なに様式風か。考えられうる様式とその理由を述べよ。
(なお、一つのドアでも複数の様式が交じり合っているのです、答えも一つではない)



① 1. 様式



② 様式



③ 様式

2. 判断した理由

判断した理由

判断した理由

2. 次の様式で写真の教会の外装をリフォームしたと仮定して、絵を書いてみよう。



① ゴシック風

② 国際様式風

2 日本近代建築史（横浜で見られるものを中心に）

1. 擬洋風建築

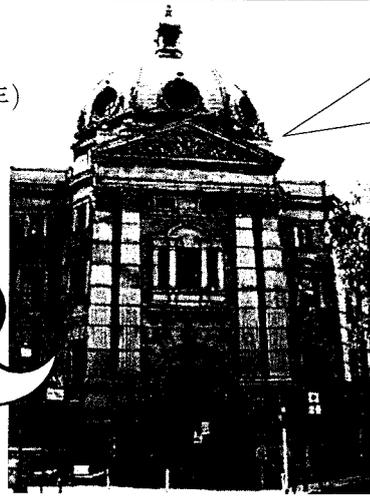


軒のあたりが和洋折衷だね…
日本人が「みようみまね」でつくった「洋風」建築
長崎などに多く残されているよ

（山手資料館・明治42年）

2. 西洋正統派建築の学習

（旧横浜正金銀行・明治37年）



復習

どの石を取り除くとビルは大きく崩れるだろうか？
○をつけよう！

どんなもんだい、立派なドームと複数階にまたがる立派な柱（大オーダー）しかも本物の石造りだぜ

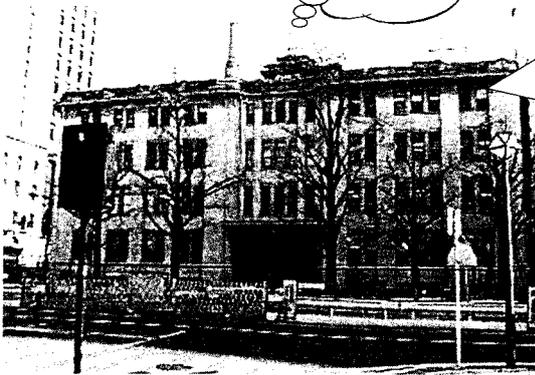
妻木頼黄設計・工事主任遠藤於菟の名コンビによるルネサンス（バロック）様式の傑作

①もともとは、何に使用された建物だろうか

②現在は、何として使用されているだろうか（⇒そのためにどんな改造をした）

3. 反逆児！

煙突だ



おいらは、日本で最初の鉄筋コンクリートビルの一つ
ただし、半分は昭和の増築だ。設計は古典様式を一つもつくらなかった遠藤於菟だぜ。

白タイル張りだし、角を曲線処理したりして、おしゃれだろ。

④増築部分は左右どちらか、判断した理由も述べよう。

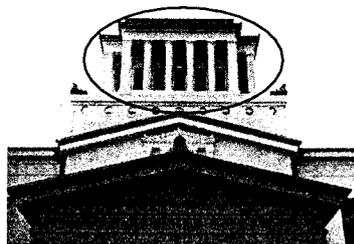
横浜三井ビル（明治44年）

ちょっとついでに…

柱の形に注目！

（大倉山記念館・昭和7年）

右に柱をスケッチしよう



4. 横浜モダニズム

(エリスマン邸・大正15年)



えっ なんかモデルハウスみたいだっけ？
レーモンドお得意のモダンスタイルさ！

①セールスマンのつもりでこの家の良い
点をアピールしよう。
左下の家と比べて！（デザイン・窓）



(下・旧ライジングサン石油社宅・昭和4年)



チョット真面目な話

横浜の近代建築の特色を一言でいうと「モダン」になるだろう。

日本で最初の鉄筋コンクリートビルが白いタイルで覆われ、昭和初期の住宅がまるで現在の住宅展示場にあるかのような洋館で、左のアパート（現在のフェリス女学院校舎）も遠目で見れば、10年前のビルだといっても分からない。

「モダン」だということは、逆にいえば観光資源として、成り立ちにくいということだ。だから、横浜の近代建築は、マンション建築ブームの今、取り壊しかどうかの瀬戸際に立たされているものが多い。

アメリカからの定期航路があった横浜に流入した文化の遺産であるこれらの建物にもう少し目を向けよう。

そして、それらの建物が、現在どんな風に利用され現代に息づいているか、どの建物が壊されようとしているか。調べよう。

5. わが国風の足音



(神奈川県庁本庁舎・昭和3年)

部分的には日本風の部位がないのに…なぜか日本風に見える!?

西洋文化に対抗する「わが国風」の建物
塔は、海から見えるものとして設計のコンペの要件に入っていた。

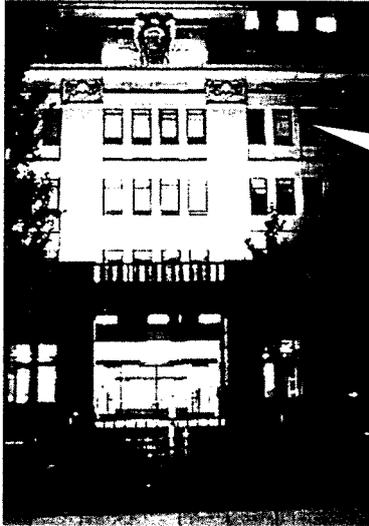
②他に塔のある建物を挙げよう
(どこから見える？ なぜ塔をつくった?)

街は大きな博物館

科 年 組 番

氏名 _____

1. 貿易の遺産をたずねて



横浜第二合同庁舎
(旧生糸検査所)

①このレリーフは、なんだ？

この建物の後ろにある帝蚕倉庫の倉庫群にも注目。
形が、富岡製糸場の倉庫とソックリだ。…何を入れたんだろうか

関内地区の古い倉庫に注目…居留地時代の倉庫も近年発見。
(倉庫には何が入っていた？ 荷役や輸送はどのように行われた？)

2. 関東大震災の傷跡をたずねて



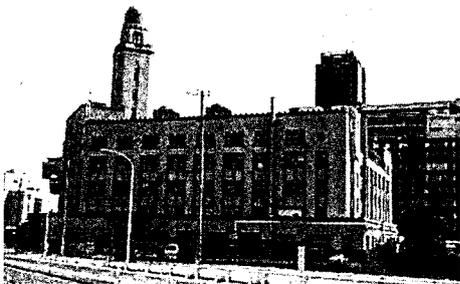
横浜税関庁舎遺構 (新港埠頭内)

②関東大震災で崩壊した庁舎あとだ。どうしてこんなに簡単に壊れてしまったのだろうか。素材や建築方法から考えよう

この他、赤レンガ倉庫も1号倉庫が小さいのは壊れたあと規模を縮小して修復をしたからだし、山手にはブラフ80メモリアルテラスという遺構がある。

(3つとも見学すれば…上の答えはわかる)

3. 港から見えた3つの塔…名前は自分で調べて！



クイーン=本当の名前は？



ジャック=本当の名前は？



キング=本当の名前は？

4. 横浜は神戸・長崎など他の開港場とくらべて、近代洋風建築が少ない理由を、**ブラフ80番**と**旧平沼駅**という言葉を使用して説明しよう。